

埋葬に係る実践事例



推進校は、飼育動物が死亡した際に、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理などについて支援を受けています。



大田区立赤松小学校

【実践の概要】



お別れしたモルモットのコーナー

○ 5匹飼育しているうちの1匹のモルモットが8月中旬に亡くなりました。飼育年数は9年と長い年月を経過しているモルモットでした。

夏休み中の出来事であったため、2学期に入ってから集会で全校児童に知らせました。

このモルモットは、卒業生も含め全校児童から愛がられた人気者でありました。

全校児童に伝えた後、飼育されていたケージに写真を備え、その周りに手紙や折り紙が添えられました。10日間ほど「お別れコーナー」を設けました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○ 飼育6年を経過するモルモットは、老衰であることが明確です。

えさと飼育環境については、学校担当獣医師の指示が飼育担当学年に毎年引き継がれています。夏季の猛暑対策や冬季の寒さ対策として、冷暖房完備の部屋に飼育場所を移動し、水を凍らせたペットボトルを用意したりペット用ヒーターの導入や風を遮断できる工夫をしたり季節に合った飼育環境を整えてきました。

児童には、ゆっくり天国へ向かっていくことを話し、静かに見守っていくよう心の配慮をしました。保護者会等でもこの経過を報告し、理解を求めました。

【児童の反応】

○ モルモットに限らず、生き物はいずれ死を迎えます。聴診器を使って「心臓の音や速さ」を聴く授業を通し、児童は「命」について学びました。モルモットの死を受け入れることによって、モルモットたちにとってより良い環境とはどのようなものか、児童なりに調べたり実際に試したりしてみて、更に飼育活動を充実できるものにしていきました。こうしたモルモットの飼育を通して、命を守る活動をしていることに多くの児童が気付くことができました。



国立市立国立第二小学校

【実践の概要】

- 飼育していたウサギ1羽が高齢により亡くなりました。飼育委員会でお別れの会を行った後、全校朝会で伝え、亡くなったウサギのことをポスターにして校内に掲示して追悼の意を表しました。



ウサギにお花を供えて、お別れ会をしました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 死亡が確認された後、学校担当獣医師に連絡し、遺体の検案と埋葬の処理・場所の準備をしていただきました。速やかに遺体の埋葬をすることができました。

【児童の反応】

- 高齢であるとはいえ、ずっと世話してきたウサギが亡くなったことに子供たちはショックを受けていました。それぞれが花を遺体に手向け、お別れをしました。今まで動いていた生命が失われることを実感し、皆神妙な面持ちでいました。「一生懸命お世話をしてもらって、ウサギもきっと幸せだったに違いない。そういう気持ちは伝わるよ。」と声をかけたら、少しうれしそうにしていました。

その後に作成した、ウサギが亡くなったことを知らせるポスターには、ウサギへの愛があらわれていました。